



「入江泰吉旧居」が一般公開 ～奈良市～

奈良市生まれの入江泰吉は、奈良の仏像、風景、伝統行事、万葉の花などの写真を半世紀以上に渡り撮り続け、高い評価を受けた写真家。

その入江氏が戦後から亡くなるまで暮らした旧居が、寄贈を受けた奈良市により整備され、平成27年3月1日から一般公開されている。

■「入江泰吉」の経歴

- 1905年 奈良市片原町（東大寺の旧境内地）に生まれる。
- 1931年 大阪・心斎橋近くに写真機材店「光芸社」を設立
- 1945年 大阪大空襲で家を消失し、奈良に戻る。
「大和古寺風物詩」に触発されて奈良の古寺を訪ね歩き、敗戦後、東大寺・法隆寺などの仏像撮影に取り組む。
- 1946年 幼馴染の東大寺観音院住職上司雲海を通じて志賀直哉、小林秀雄、杉本健吉らと交流。以後は仏像だけでなく、「大和路」の風景などを撮り続けた。
- 1976年 写真集「古色大和路」「万葉大和路」「花大和」の三部作で菊池寛賞を受賞。
- 1978年 勲四等瑞宝章受章
- 1992年 86歳で逝去
全作品と愛蔵品を寄贈した「奈良市写真美術館」が開館

■入江泰吉旧居

- ◆所 在：奈良市水門町 49 番地の 2
 - ◆会館時間：9:30～17:00（入館は 16:30 まで）
 - ◆休 館 日：毎週月曜
（祝日の場合は最も近い平日）
 - ◆入 館 料：200 円（税込）
団体（20 人以上）100 円
- 旧居は、東大寺戒壇院南側の土塀や古い家が並び、風情ある町並みが残る閑静な住宅地にある。
大正8年に正法院家住宅（吉城園）の建て替え

に伴い、その地にあった建物を移築したと伝えられており、約 540㎡の敷地に主屋と別棟が建つ。

室内の調度品や机などの家具は、入江氏の愛用品がそのまま展示されており、書斎には生前のままに蔵書が並べられた本棚や、ロッキングチェアが置かれている。ここで、作品の構想を練り、趣味の時間も愉しんだ入江氏の姿を偲ぶことのできる施設となっている。



平面図



書斎

■文化創造の空間として

奈良市ではこの旧居を、「入江氏の歴史文化への深い理解に裏打ちされた美意識やまなざしに思いを馳せ、新たな文化創造の空間として、ここを訪れる方とともに考える場として活用する」構想である。

東大寺や興福寺を含む周辺のエリアは「古都奈良の文化財」として世界遺産にも登録された地域であり、奈良県も活性化に取り組んでいる。

今後ますます奈良の文化・観光振興の拠点として、多くの観光客を誘致する地域の中に立つ同施設への期待は大きい。（奥 桂子）